
聖絶（ジェノサイドからの帰還）

藪 冬彦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖絶（ジエノサイドからの帰還）

【Nコード】

N9358X

【作者名】

藪 冬彦

【あらすじ】

北海道のサバゲー愛好者が、定例戦に集まった美瑛の丘で遭遇した大地震。そして時空を超えてアフリカ中部のルワンダ共和国の地に立った18人。周辺は死体が散乱する大量虐殺の渦の中だった。やがて彼らは本物の銃を手に取り、生死を賭けて引き金を絞った。。。

夜戦（前書き）

平和ボケした日本人に覚醒を促したい気持ちで創作しました。

夜戦

閃光が交錯していた。
M4アサルトライフルのフルオートトレーサーから放たれるBB弾
だった。

その光の饗宴に赤城誠は、しばしば我を忘れ見入っていた。
初秋の週末、サバイバルチームの定例戦でホームフィールドの美瑛
の丘に彼は立っていた。

気温は10度を下回らず珍しく良好なコンディションの夜だった。
ゴーグルが荒い息で曇り始め視界が狭くなる。

数ゲームを消化し、深夜2時を過ぎようとしていた。
集まった仲間は18人。

もう10年以上を費やす大人達の遊びだった。
9人对9人フラッグ戦を決行する、敵味方ともフォーメーションは
息がぴったりだった。

無線を介しながらお互いの位置を確認し、敵の殲滅を謀る。
ブッシュに身を隠し、しばしば訪れる静けさの中に電動ガンのリコ
イル音が静寂を破る。

突然、BB弾が耳元を掠めていった。

（おっと 危ねえ！）と赤城は唇を尖らせた。

「赤城さんの前方10メートルの木の下に2人居る・・・引き付け
るから後ろに回りこんでくれ」

赤城のインカムに味方の誉田から無線が入った。

「OK！」

誉田のAK47がけたたましく唸り始めた。
敵も応戦する。

その間隙を衝いて赤城は匍匐前進を始めた。
何か違和感をおぼえた。

突然眩暈を感じたのだ。

地鳴りのような音が地中から押し寄せてきた。
そして地面が揺らぎ始めた。

(地震か!?)

方々から仲間の動揺の声が上がり始める。

「やばいぞ！地震だ」

「全員セーフティゾーンに戻れ！」と赤城が叫んだ。

揺れは激しさを増し出した。

横揺れから縦揺れになり立っていることも難しくなった。

「まずい 皆んなその場から動くな 危険だぞ！」

「収まるまで待つんだ」

赤城は這い蹲るようにその場に伏せていた。

5分ぐらい経っただろうか、とても長く感じた。

ようやく揺れも収まり出した。

立ち上がった赤城は、チーム全員員の安否を確認するために声を上げた。

「すぐにセーフティまで集まってくれ」

ブッシュの中から次々と仲間が現れはじめた。

LEDライトのランタンの下に全員が集まった。

赤城は彼らを見回して安堵の溜息をついた。

「みんな怪我はないようだな よかった」

「そう云えば、今日は9月11日だよな」と誉田が呟いた。

あの東北大震災から6ヶ月が経っていた。

「今日はもうお開きにしよう お疲れさん！」

「おい 携帯が繋がらないぞ！」と誰かが叫んだ。

赤城は自分の携帯を開いた。

その時、足元の地面が崩れ始め地面が裂け始めた。

絶叫とともに全員が滑り落ち、地中深く飲み込まれていった。

つづく

夜戦（後書き）

戦国自衛隊に少なからず影響を受けました。そしてちょっとグロ―バル化しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9358x/>

聖絶（ジェノサイドからの帰還）

2011年10月26日02時04分発行